

川崎市建築物環境配慮制度受付番号 17010

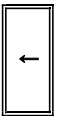
建築物名称	京浜1焼結機長延長工事増築部建築工事
建築主	JFEスチール株式会社 専務執行役員 東日本製鉄所 京浜地区所長 日下 修一
建築物の所在地	川崎市川崎区扇島1番地1
設計者氏名、建築士事務所名	早坂 明吉 株式会社JFE設計一級建築士事務所
工事種別	増築
床面積の合計	2,304.92m ²
用途	工場
構造	鉄骨造
階数	地上7階
工事完了予定年月	平成31年8月
自然エネルギーの利用 (利用を検討した自然エネルギーの種類)	太陽光発電、太陽熱利用
自然エネルギーの利用 (利用を決めた自然エネルギーの種類)	なし

CASBEE川崎

■使用評価マニュアル: CASBEE-川崎2017年版

(使用評価ソフト: CASBEE-川崎2017(v.1.0))

評価結果



1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	京浜1焼結 機長延長工事 増築部建築工事	階数	地上7F
建設地	川崎市川崎区扇島1番地1	構造	S造
用途地域	工業専用地域指定なし	平均居住人員	30人
地域区分	6地域	年間使用時間	1,920時間/年(想定値)
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2019年8月 予定	評価の実施日	2017年6月2日
敷地面積	3,141 m ²	作成者	JFE設計
建築面積	622 m ²	確認日	2017年6月7日
延床面積	2,305 m ²	確認者	JFE設計

外観/パース等
図を貼り付けるときは
シートの保護を解除してください

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 0.6

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質

Qのスコア = 2.3

Q1 室内環境

Q1のスコア = 0.0

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 2.3

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.4

LR 環境負荷低減性

LRのスコア = 2.8

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 0.0

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 2.9

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 2.6

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

重点項目についての環境配慮概要		実績重点項目スコア 合計/ 重点項目最高スコア合計	重点項目への 貢献点注) (5点満点)
内訳対応項目	各項目について配慮した内容を記述してください。		
緑の保全・回復(G)		Gの平均点	2.7
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策			
1 生物環境の保全と創出			
2 まちなみ・景観への配慮		2.0/4.3	2.3
3 3.2 敷地内温熱環境の向上			
LR-3 ■ 敷地外環境対策			
2 2.2 温熱環境悪化の改善		0.8/1.3	3.0
地球温暖化防止対策の推進(W)		Wの平均点	2.5
Q-1 ■ 室内環境対策			
2 2.1 2.1.2 外皮性能			
3 3.1 3.1.3 昼光利用設備		0.0/0.0	-
3.2 3.2.1 昼光制御			
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策			
1 生物環境の保全と創出			
3 3.2 敷地内温熱環境の向上		0.8/2.3	1.7
LR-1 ■ エネルギー対策			
1 建物外皮の熱負荷抑制			
2 自然エネルギーの利用		0.0/0.0	-
3 設備システムの高効率化			
4 効率的運用			
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策			
1 水資源保護			
2 非再生性資源の使用量削減	躯体と仕上げの分別が容易な構造(LGS下地)	2.8/4.7	2.9
3 3.2 フロン・ハロンの回避	発泡剤を含む断熱材は使用していない。		
LR-3 ■ 敷地外環境対策			
2 2.2 温熱環境悪化の改善		0.8/1.3	3.0
資源の有効利用による循環型地域社会の形成(R)		Rの平均点	2.5
Q-2 ■ サービス性能対策			
2 2.2 部品・部材の耐用年数		0.3/0.8	2.3
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策			
1 水資源保護			
2 非再生性資源の使用量削減	躯体と仕上げの分別が容易な構造(LGS下地)	2.1/4.0	2.6
LR-3 ■ 敷地外環境対策			
2 2.3 地域インフラへの負荷抑制		0.3/0.6	2.2
ヒートアイランド現象の緩和(H)		Hの平均点	2.4
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策			
1 生物環境の保全と創出			
3 3.2 敷地内温熱環境の向上		0.8/2.3	1.7
LR-1 ■ エネルギー対策			
1 建物外皮の熱負荷抑制			
2 自然エネルギーの利用		0.0/0.0	-
3 設備システムの高効率化			
4 効率的運用			
LR-3 ■ 敷地外環境対策			
2 2.2 温熱環境悪化の改善		0.8/1.3	3.0

注)重点項目に該当する評価項目の得点(重み係数付)を集計し、当該項目の最高点の合計に対する貢献度を示した点数。

重点項目への貢献点の平均点 **2.5**

ライフサイクルCO2評価対象項目についての環境配慮概要		実績スコア合計/ 最高点のスコア合計	ライフサイクル CO2評価対象 項目への 貢献点注) (5点満点)
内訳対応項目	各項目について配慮した内容を記述してください。		
建設段階			
Q-2 ■ サービス性能対策			
2 2.2 2.2.1 躯体材料の耐用年数		0.1/0.2	3.0
修繕・更新・解体段階			
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策			
2 2.2 既存建築躯体等の継続利用		0.8/1.3	3.0
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			
運用時のエネルギー			
LR-1 ■ エネルギー対策			
1 建物外皮の熱負荷抑制			
2 自然エネルギーの利用		0.0/0.0	-
3 設備システムの高効率化			
4 効率的運用			

注)ライフサイクルCO2評価対象項目に該当する評価項目の得点(重み係数付)を集計し、当該項目の最高点の合計に対する貢献度を示した点数。

スコアシート		実施設計段階				環境配慮設計の概要記入欄				
配慮項目	重点項目				建物全体・共用部分	住居・宿泊部分		全体		
	G	W	R	H		評価点	重み係数			
Q 建築物の環境品質								2.3		
Q1 室内環境										
1 音環境										
1.1 室内騒音レベル										
1.2 遮音										
1 開口部遮音性能										
2 界壁遮音性能										
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)										
4 界床遮音性能(重量衝撃源)										
1.3 吸音										
2 温熱環境										
2.1 室温制御										
1 室温										
2 外皮性能		W								
3 ゾーン別制御性										
2.2 湿度制御										
2.3 空調方式										
3 光・視環境										
3.1 昼光利用										
1 昼光率										
2 方位別開口										
3 昼光利用設備		W								
3.2 グレア対策										
1 昼光制御		W								
3.3 照度										
3.4 照明制御										
4 空気質環境										
4.1 発生源対策										
1 化学汚染物質										
4.2 換気										
1 換気量										
2 自然換気性能										
3 取り入れ外気への配慮										
4.3 運用管理										
1 CO ₂ の監視										
2 喫煙の制御										

Q2 サービス性能				-	0.43	-	-	2.3
1 機能性				-	-		-	-
1.1 機能性・使いやすさ				-	-		-	-
1	広さ・収納性			-	-		-	-
2	高度情報通信設備対応			-	-		-	-
3	バリアフリー計画			-	-		-	-
1.2 心理性・快適性				-	-		-	-
1	広さ感・景観			-	-		-	-
2	リフレッシュスペース			-	-		-	-
3	内装計画			-	-		-	-
1.3 維持管理				-	-		-	-
1	維持管理に配慮した設計			-	-		-	-
2	維持管理用機能の確保			-	-		-	-
2 耐用性・信頼性				2.5	0.50		-	2.5
2.1 耐震・免震・制震・制振				3.0	0.50		-	-
1	耐震性(建物のこわれにくさ)			3.0	0.80		-	-
2	免震・制震・制振性能			3.0	0.20		-	-
2.2 部品・部材の耐用年数				2.3	0.30		-	-
1	躯体材料の耐用年数	R		3.0	0.20		-	-
2	外壁仕上げ材の補修必要間隔	R		2.0	0.20		-	-
3	主要内装仕上げ材の更新必要間隔	R		2.0	0.10		-	-
4	空調換気ダクトの更新必要間隔	R		3.0	0.10		-	-
5	空調・給排水配管の更新必要間隔	R		3.0	0.20		-	-
6	主要設備機器の更新必要間隔	R		1.0	0.20		-	-
2.4 信頼性				2.0	0.20		-	-
1	空調・換気設備			3.0	0.20		-	-
2	給排水・衛生設備			1.0	0.20		-	-
3	電気設備			3.0	0.20		-	-
4	機械・配管支持方法			1.0	0.20		-	-
5	通信・情報設備			2.0	0.20		-	-
3 対応性・更新性				2.1	0.50		-	2.1
3.1 空間のゆとり				2.2	0.30		-	-
1	階高のゆとり			3.0	0.60		-	-
2	空間の形状・自由さ			1.0	0.40		-	-
3.2 荷重のゆとり				3.0	0.30		-	-
3.3 設備の更新性				1.4	0.40		-	-
1	空調配管の更新性			1.0	0.20		-	-
2	給排水管の更新性			1.0	0.20		-	-
3	電気配線の更新性			1.0	0.10		-	-
4	通信配線の更新性			1.0	0.10		-	-
5	設備機器の更新性			1.0	0.20		-	-
6	バックアップスペースの確保			3.0	0.20		-	-
Q3 室外環境(敷地内)				-	0.57	-	-	2.4
1 生物環境の保全と創出				G	W	H		1.0
2 まちなみ・景観への配慮				G				3.0
3 地域性・アメニティへの配慮								3.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上								3.0
3.2 敷地内温熱環境の向上				G	W	H		3.0

LR 建築物の環境負荷低減性									2.8
LR1 エネルギー									
1 建物外皮の熱負荷抑制	W		H						
2 自然エネルギー利用	W		H						
3 設備システムの高効率化	W		H	[BEQ][BEIm] =	-				
4 効率的運用									
集合住宅以外の評価									
4.1 モニタリング	W		H						
4.2 運用管理体制	W		H						
集合住宅の評価									
4.1 モニタリング	W		H						
4.2 運用管理体制	W		H						
LR2 資源・マテリアル									2.9
1 水資源保護	W	R							2.2
1.1 節水									1.0
1.2 雨水利用・雑排水等の利用									3.0
1 雨水利用システム導入の有無									3.0
2 雑排水等利用システム導入の有無									3.0
2 非再生性資源の使用量削減									2.7
2.1 材料使用量の削減	W	R							3.0
2.2 既存建築躯体等の継続使用	W	R							3.0
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	W	R		-					3.0
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	W	R		-					1.0
2.5 持続可能な森林から産出された木材	W	R							-
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	W	R							4.0
									0.22
3 汚染物質含有材料の使用回避									4.4
3.1 有害物質を含まない材料の使用									3.0
3.2 フロン・ハロンの回避									5.0
1 消火剤	W								-
2 発泡剤(断熱材等)	W								5.0
3 冷媒	W								-
									1.00
									-
LR3 敷地外環境									2.6
1 地球温暖化への配慮	W								-
2 地域環境への配慮									2.2
2.1 大気汚染防止									1.0
2.2 温熱環境悪化の改善	G	W	H						3.0
2.3 地域インフラへの負荷抑制									2.0
1 雨水排水負荷低減			R						3.0
2 汚水処理負荷抑制			R						3.0
3 交通負荷抑制			R						1.0
4 廃棄物処理負荷抑制			R						1.0
3 周辺環境への配慮									3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止									3.0
1 騒音									3.0
2 振動									-
3 悪臭									-
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制									3.0
1 風害の抑制									3.0
2 砂塵の抑制									-
3 日照障害の抑制									3.0
3.3 光害の抑制									3.0
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策									3.0
2 星光の建物外壁による反射光(グレア)への対策									3.0